

結果一覧表

試験番号	G-14-006	G-14-007	G-14-008	G-14-009	G-14-010	G-14-011	G-14-012	G-14-013	
被験物質	名称	プロピレングリコール	アセトンシアノヒドリン	1,3-ブタンジオール	2-ジメチルアミノエタノール	プロピレングリコール1-モノメチルエーテル2-アセタート	2-(2-メトキシエトキシ)エタノール	ヘキサメチレンジアミン	フタル酸ジイソニル
	英名	Propylene glycol	Acetone cyanohydrin	1,3-Butanediol	2-Dimethyl-aminoethanol	Propylene glycol 1-monomethyl ether 2-acetate	2-(2-Methoxyethoxy)ethanol	Hexamethylene-diamine	Diisononyl phthalate
	略名	PPG	ACH	BDO	DMAE	PGME	MEE	HMDA	DINP
	CAS No.	57-55-6	75-86-5	107-88-0	108-01-0	108-65-6	111-77-3	124-09-4	28553-12-0
	分子量	76.09	85.11	90.12	89.14	132.16	120.15	116.21	418.6
	製造	和光純薬工業	東京化成工業	和光純薬工業	和光純薬工業	東京化成工業	和光純薬工業	和光純薬工業	和光純薬工業
	ロット	KPN6713	FHM01	KPN6957	CTN3572	DW3CE	CTP1713	KPP5758	KPK2794
用量設定試験	1回目の濃度 (mM) クリスタルバイオレット法	0.31、0.63、1.3、2.5、5.0、10	0.31、0.63、1.3、2.5、5.0、10	0.31、0.63、1.3、2.5、5.0、10	0.31、0.63、1.3、2.5、5.0、10	0.31、0.63、1.3、2.5、5.0、10	0.31、0.63、1.3、2.5、5.0、10	0.31、0.63、1.3、2.5、5.0、10	0.31、0.63、1.3、2.5、5.0、10
	2回目の濃度 (mM) クリスタルバイオレット法	NT	NT	NT	1.0、2.0、4.0、6.0、7.0、8.0、9.0、10	NT	NT	1.0、2.0、4.0、6.0、7.0、8.0、9.0、10	0.010、0.030、0.10、0.30、1.0、3.0、10
	3回目の濃度 (mM) 血球計算盤法	NT	NT	NT	1.0、2.0、4.0、6.0、7.0、8.0、9.0、10	NT	NT	1.0、2.0、4.0、6.0、7.0、8.0、9.0、10	NT
形質転換試験	濃度 (mM)	1.0、2.0、4.0、6.0、8.0、10	1.0、2.0、4.0、6.0、8.0、10	1.0、2.0、4.0、6.0、8.0、10	1.0、2.0、4.0、6.0、7.0、8.0、9.0、10	1.0、2.0、4.0、6.0、8.0、10	1.0、2.0、4.0、6.0、8.0、10	1.0、2.0、4.0、6.0、7.0、8.0、9.0、10	0.00010、0.0010、0.010、0.10、1.0、10
	細胞増殖	影響無し	影響無し	影響無し	4.0 mMで促進、9.0及び10 mMで阻害	影響無し	影響無し	8.0 mMで促進、10 mMで阻害	0.010-10 mMで促進
	形質転換巢の有意な増加	全濃度で見られず	全濃度で見られず	全濃度で見られず	1.0及び2.0 mMで見られた	全濃度で見られず	全濃度で見られず	1.0-7.0 mMで見られず	0.10 mM以外の全濃度で見られず
	備考				毒性のため、9.0 mMは培養終了時でもconfluentにならず、10 mMは培養の途中で全細胞が剥がれてしまったため評価対象外			毒性のため、8.0-10 mMは培養の途中で全細胞が剥がれてしまったため評価対象外	毒性のため、0.10 mMは培養終了時でもconfluentにならなかったため評価対象外
							6.0 mM以上ではpHが高くなった	1.0 mM以上では細かい油滴状になって浮いていた	
結論 (in vitroプロモーション)		陰性	陰性	陰性	陽性	陰性	陰性	陰性	陰性

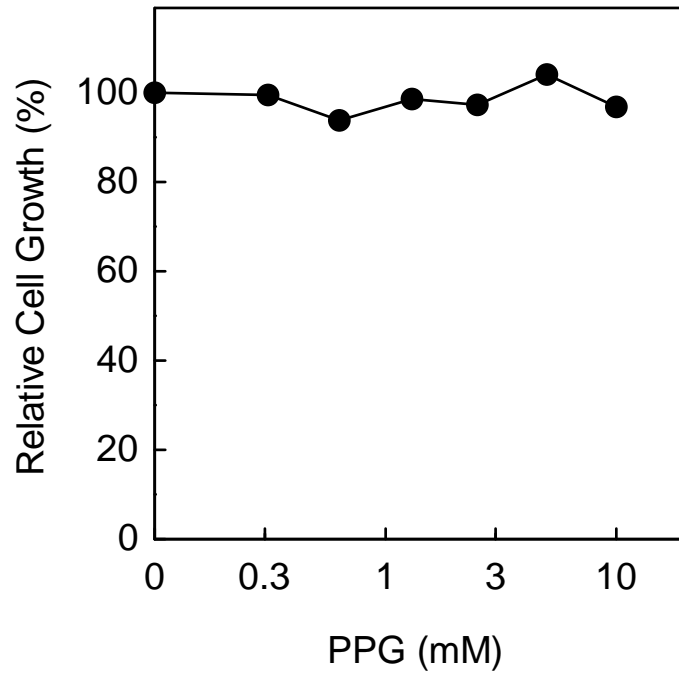


図1 プロピレングリコールの Bhas 42 細胞における用量設定試験の結果

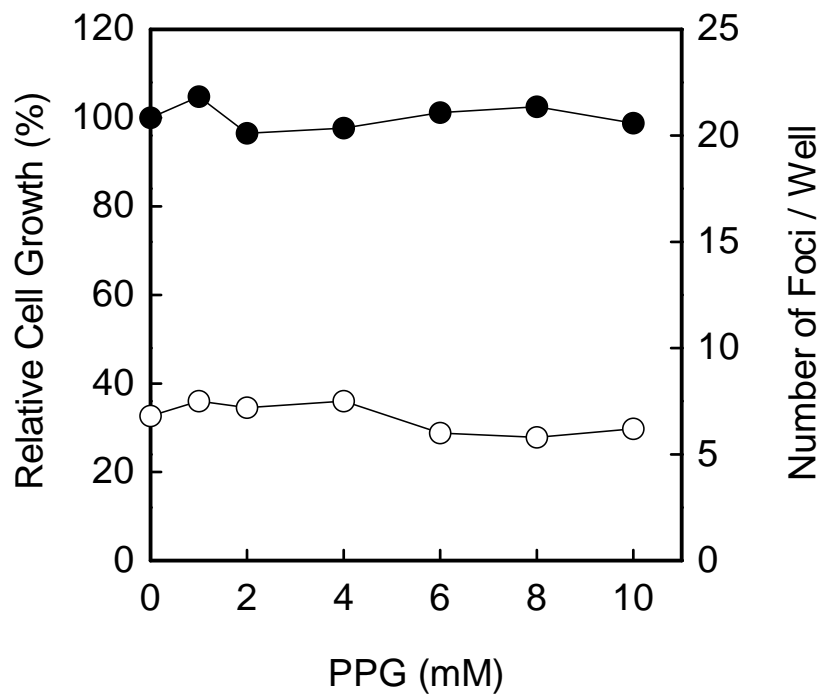


図2 プロピレングリコールの Bhas 42 細胞における形質転換試験の結果

: 相対細胞増殖率(%), : 形質転換巣数/ウェル。

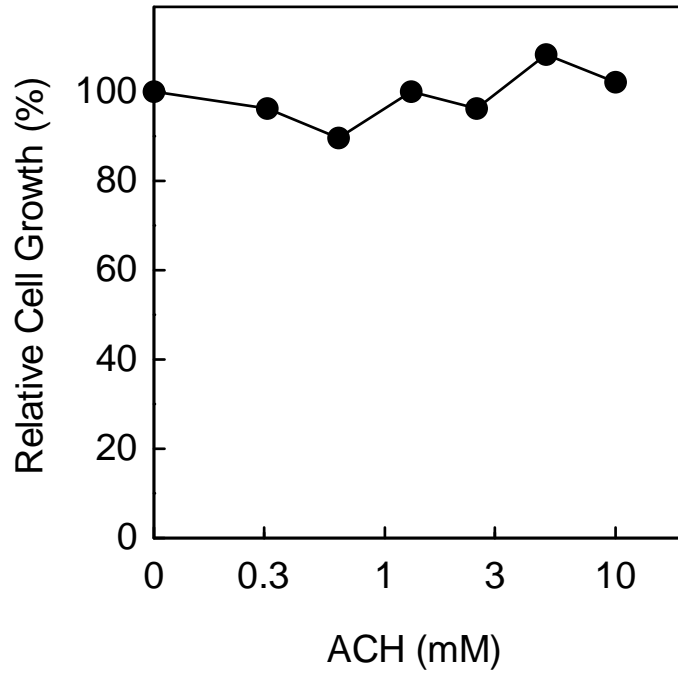


図2 アセトンシアニドリンの Bhas 42 細胞における用量設定試験の結果

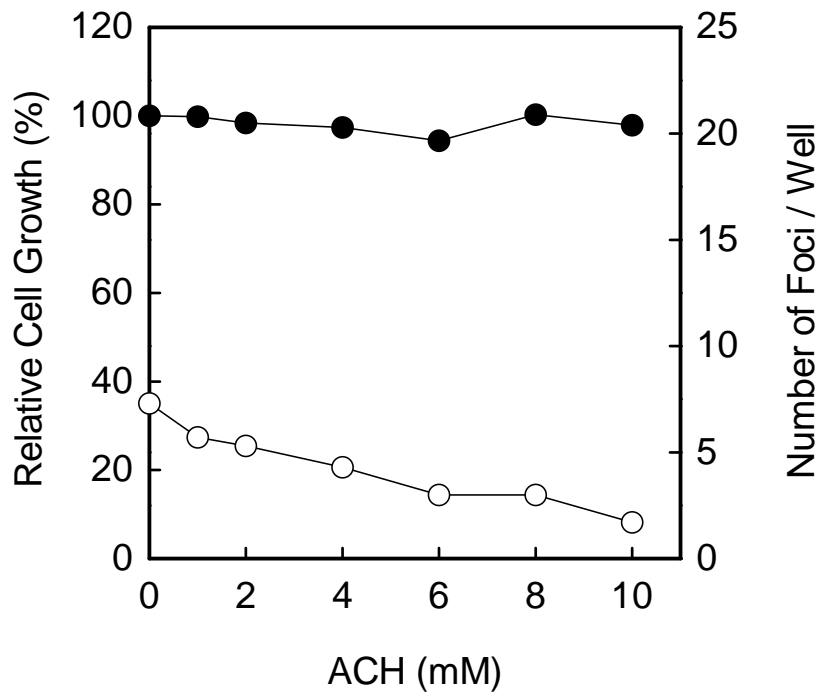


図2 アセトンシアニドリンの Bhas 42 細胞における形質転換試験の結果

: 相対細胞増殖率(%), : 形質転換巣数/ウェル。

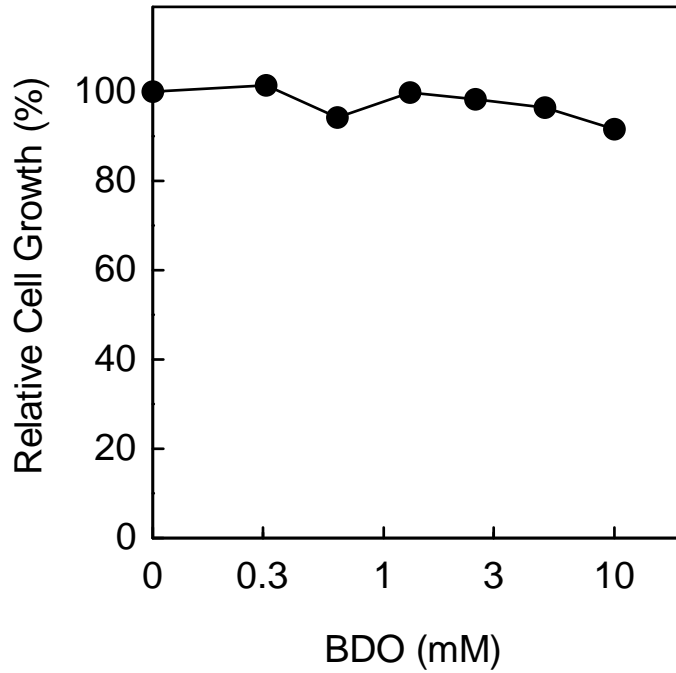


図3 1,3-ブタンジオールの Bhas 42 細胞における用量設定試験の結果

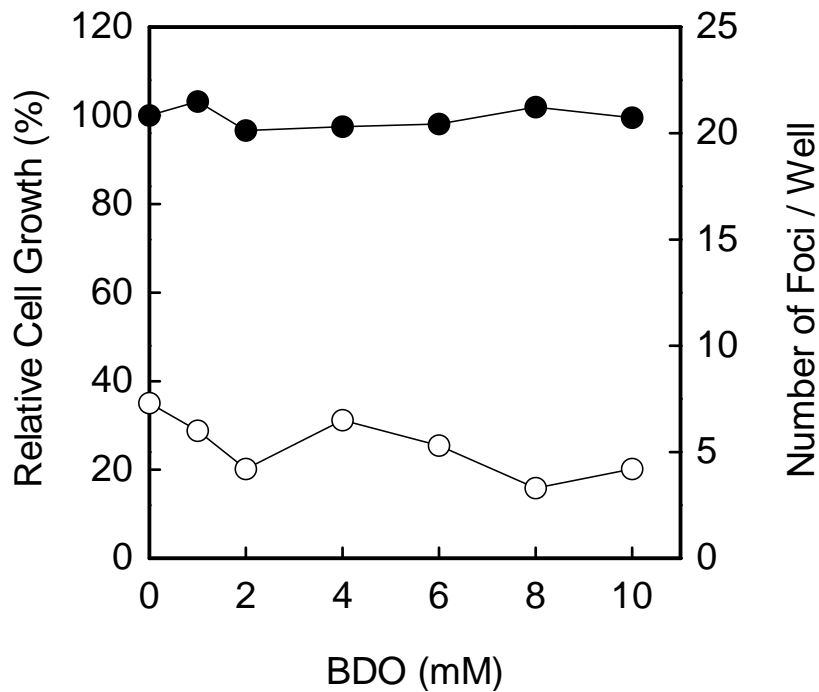


図2 1,3-ブタンジオールの Bhas 42 細胞における形質転換試験の結果

: 相対細胞増殖率(%), : 形質転換巣数/ウェル。

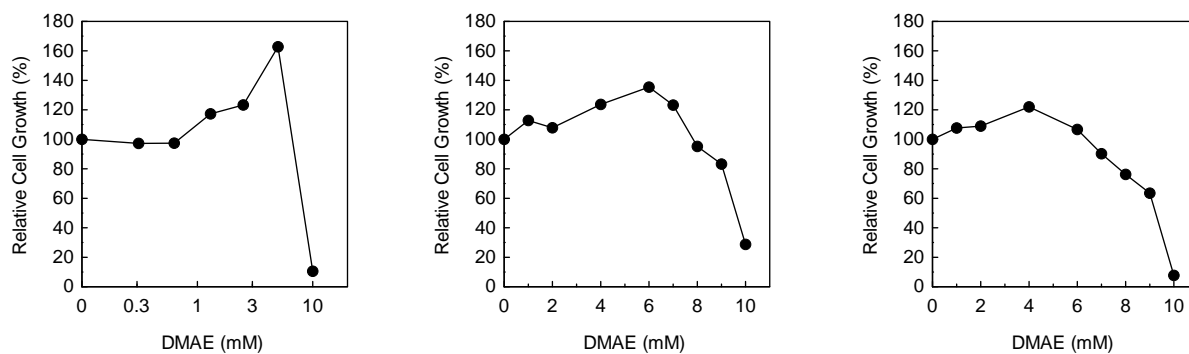


図4 2-ジメチルアミノエタノールの Bhas 42 細胞における用量設定試験の結果

左:1回目(クリスタルバイオレット法)、中:2回目(クリスタルバイオレット法)、右:3回目(血球計算盤法)。

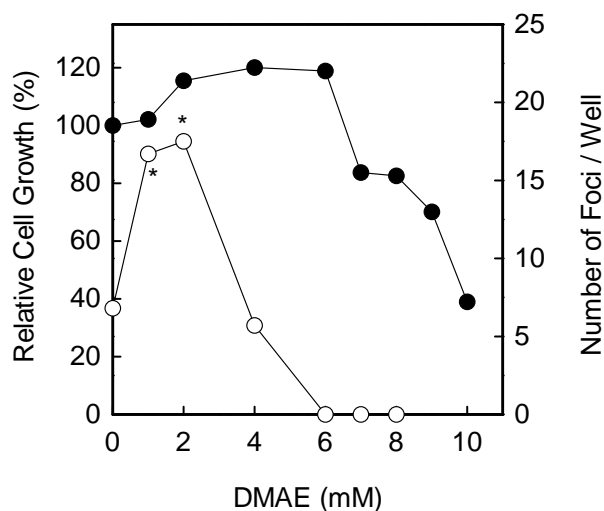


図2 2-ジメチルアミノエタノールの Bhas 42 細胞における形質転換試験の結果

●:相対細胞増殖率(%), ○:形質転換集数/ウェル。

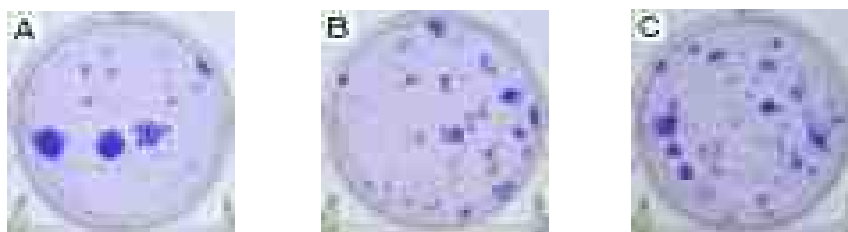


図3 染色した Bhas 42 細胞の代表的ウェル

A: DMSO 0.5 vol%, B: TPA 50 ng/mL, C: 2-ジメチルアミノエタノール 1 mM。

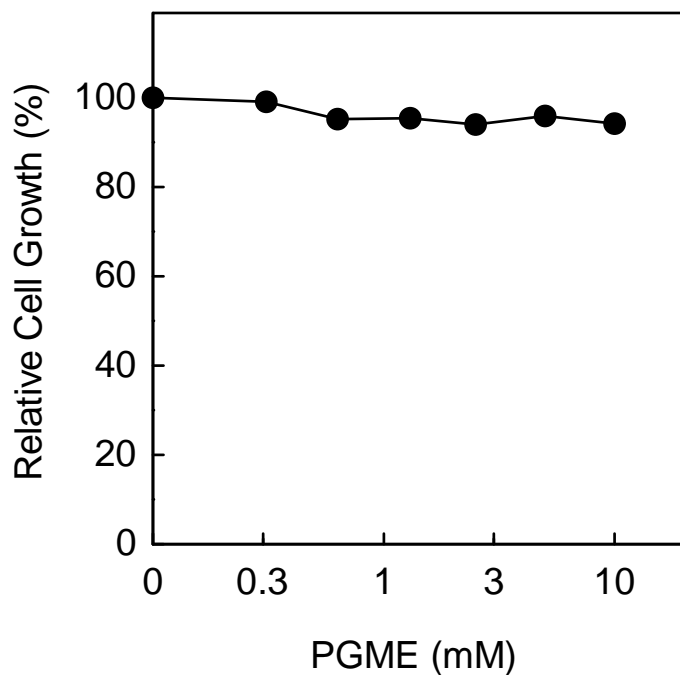


図5 プロピレングリコール 1-モノメチルエーテル 2-アセタートの Bhas 42 細胞における用量設定試験の結果

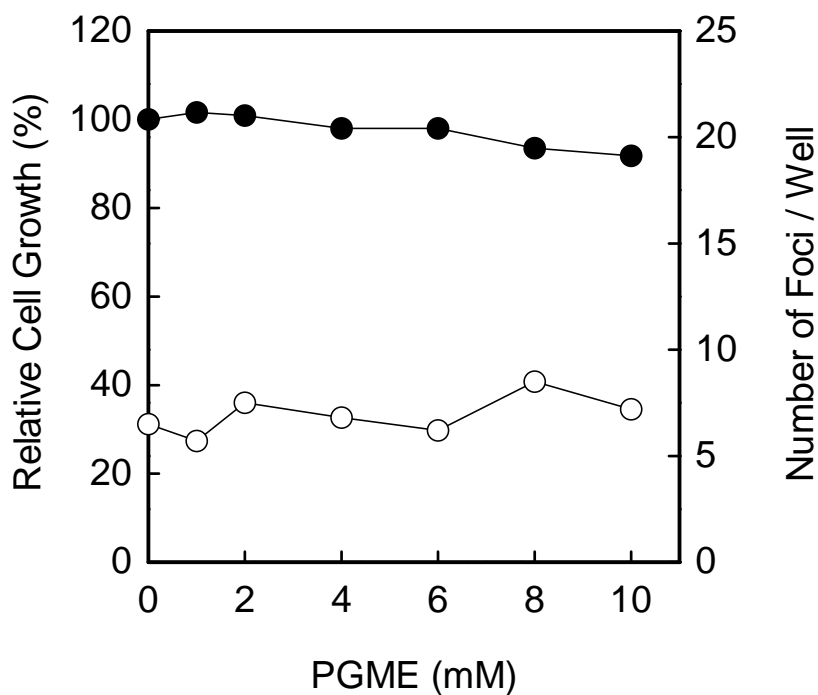


図2 プロピレングリコール 1-モノメチルエーテル 2-アセタートの Bhas 42 細胞における形質転換試験の結果

: 相対細胞増殖率(%), : 形質転換巢数/ウェル。

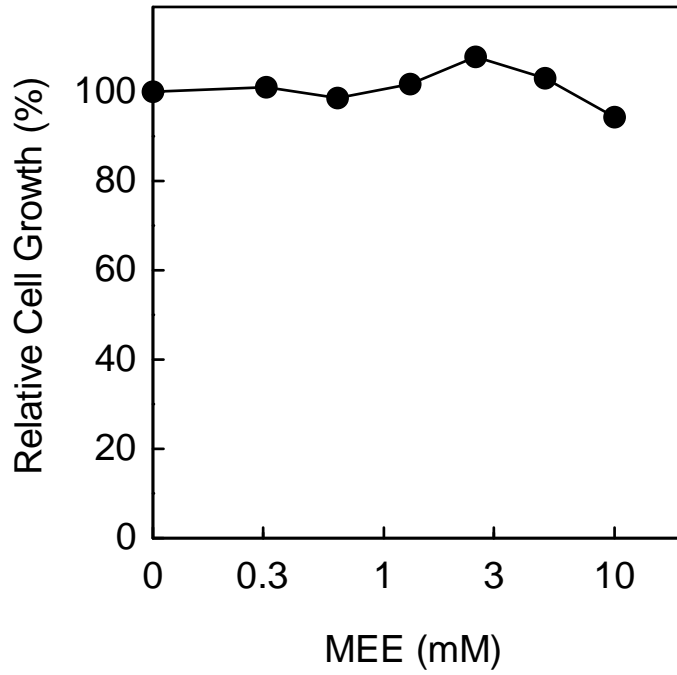


図6 2-(2-メトキシエトキシ)エタノールの Bhas 42 細胞における用量設定試験の結果

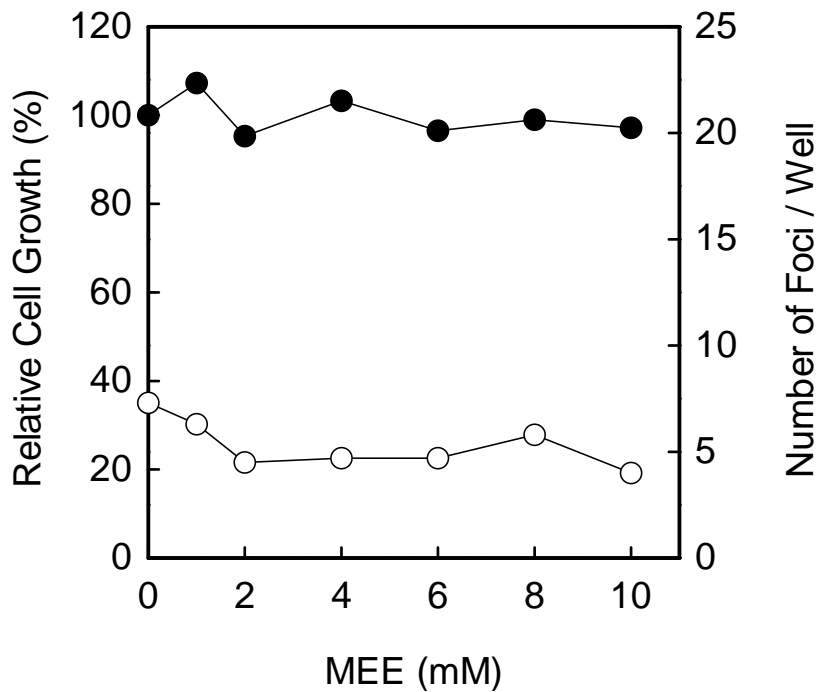


図2 2-(2-メトキシエトキシ)エタノールの Bhas 42 細胞における形質転換試験の結果

: 相対細胞増殖率(%), : 形質転換巣数/ウェル。

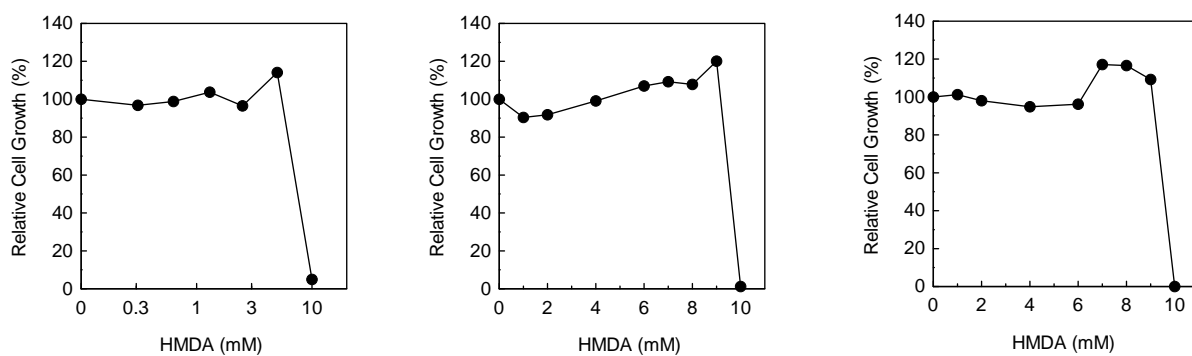


図7 ヘキサメチレンジアミンの Bhas 42 細胞における用量設定試験の結果

左: 1回目(クリスタルバイオレット法)、中: 2回目(クリスタルバイオレット法)、右: 3回目(血球計算盤法)。

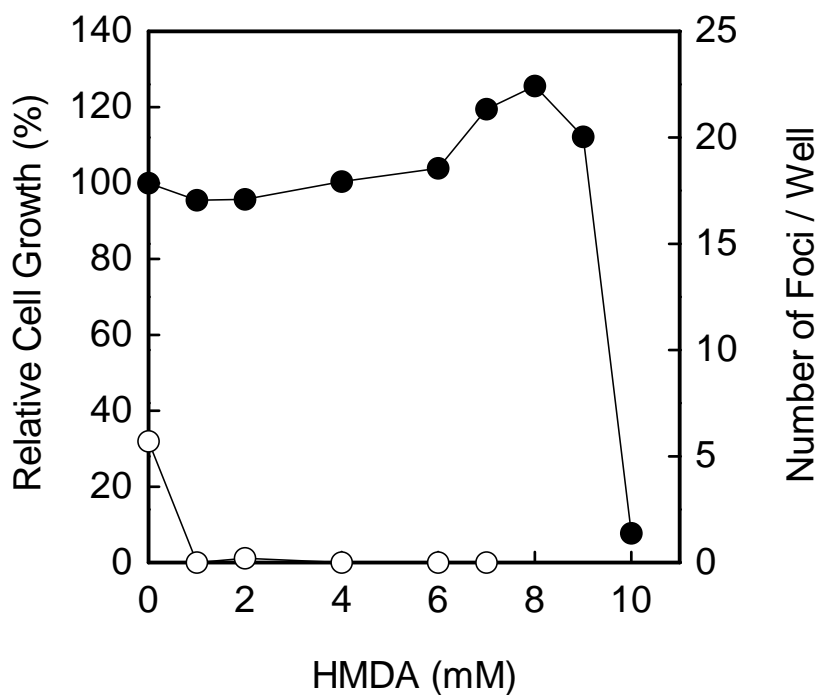


図2 ヘキサメチレンジアミンの Bhas 42 細胞における形質転換試験の結果

●: 相対細胞増殖率(%), ○: 形質転換巣数/ウェル。



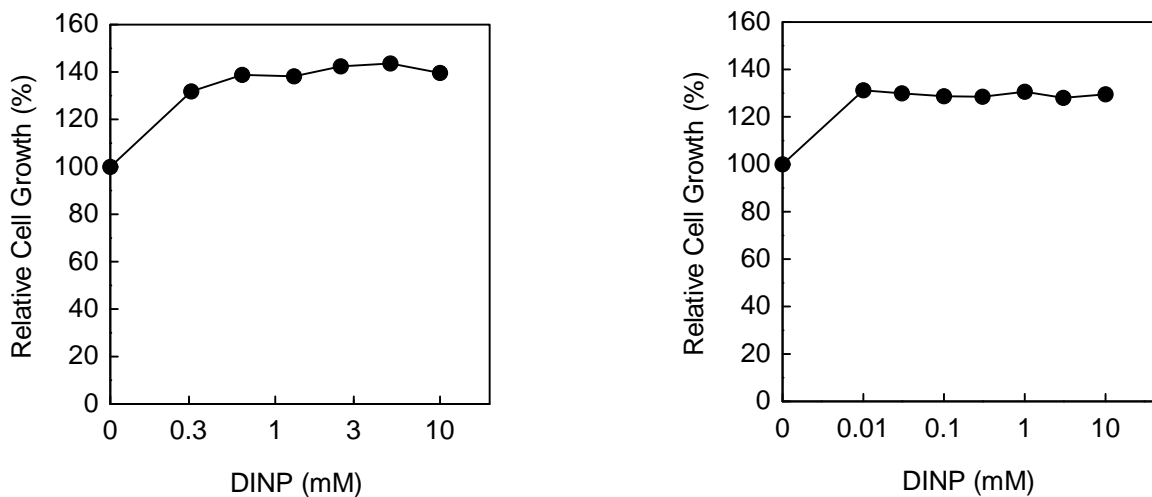


図8 フタル酸ジイソニルの Bhas 42 細胞における用量設定試験の結果

左:1回目、右:2回目。

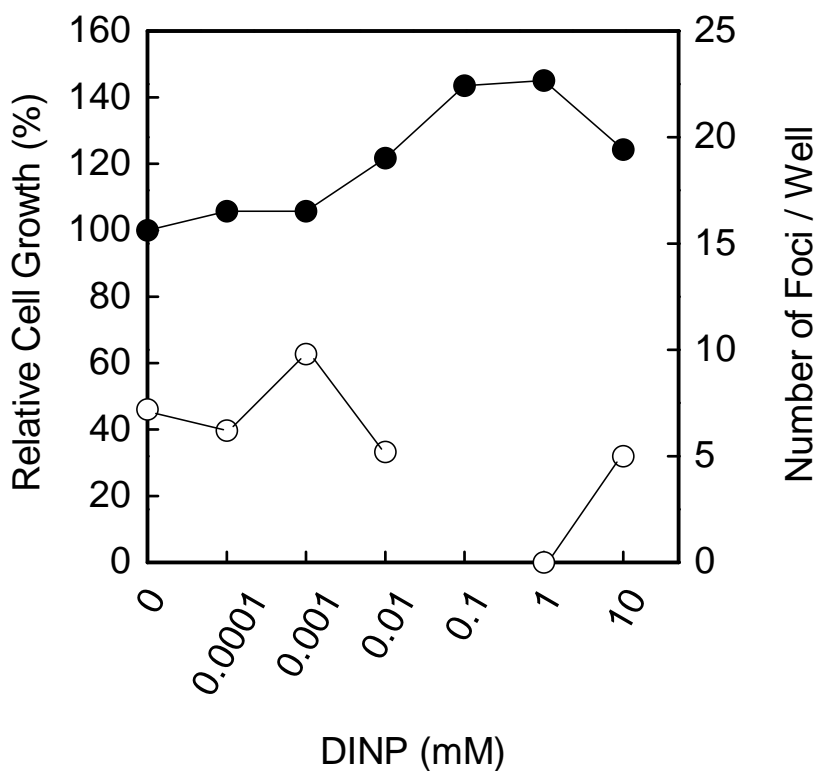


図2 フタル酸ジイソニルの Bhas 42 細胞における形質転換試験の結果

○: 相対細胞増殖率(%), ●: 形質転換巣数/ウェル。